

学校図書館だより



No. 7

11月は「横浜市民の読書活動推進月間」。森の台小学校でも11月1日から30日を読書月間として、様々な取組を行っています。毎年恒例の「読書の木」を掲示し、13日月曜日には、読書集会がありました。「どろぼうがっこう」の劇の他に、新しくピブリオバトルが行われ、大変盛り上がりしました。また休み時間は、読書オリエンテーリング、ボランティアさんの企画も開催されているので、図書館は毎日大盛況。楽しい子どもたちの様子がうかがえます。保護者の皆様も秋の夜長に、ぜひ本を手にとって過ごしてみたいかがでしょう。緑図書館など、学校以外の場所でも、本に親しむための活動を行っているため、ぜひ参加してみてください。

がっこうとしょかん 学校図書館からのお知らせ

- 1月10日ごろより横浜市立緑図書館にて、「おはなし列車」(本の紹介文) 森の台小150選が展示されます。(他の「おはなし列車」は廊下に随時掲示予定)
- 人権月間のテーマは『障がい』です。本を是非手にとってみましょう。
- 冬休み特別貸出しは12月15日からです。かえす日を守りましょう。

先生のおすすめ本

三戸先生 (少人数)	高橋先生 (音楽)	塚本先生 (2-1)	清水先生 (2-3)
「多動力」	「少年探偵シリーズ」	「つるばらむらの洋服屋さん」	「きよしこ」
堀江貴文 文	江戸川乱歩 著	茂市久美子 著	重松清 作

学校図書館に
あります

学校図書館に
あります

学校図書館に
あります

あの堀江さんが書いた大人向けの本書です。今の時代に必要とされる、いくつもの異なることを同時にこなす「多動力」について解き明かしています!

全26巻になるこのシリーズを小学生時代に夢中で読んでいました。ミステリーの恐怖やおもしろさ、少年達の連携や友情が味わえます。皆さんの知らない昭和という時代の景色もちょっとだけのぞけますよ。

茂市久美子さんのつるばら村シリーズの中のひとつです。心があたたかくなるファンタジー。ぜひシリーズを続けて読んでください。

自分の想いを伝えられないひとりぼっちのきよし。きよしの複雑な想いと、きよしの心の中にある「きよしこ」の想い。人の想いについて深く考えさせられる本です。

トピックス ～足利義昭（あしかがよしあき）～

足利義昭は、室町幕府最後の将軍です。父は室町幕府第12代将軍・足利義晴であり、第13代将軍・足利義輝は同じ母をもつ兄になります。最初は、足利将軍家の家督相続者以外の子のしきたりとして仏門に入り、奈良の興福寺僧侶となります。応仁の乱以降、室町幕府の力が衰えていく中、兄の義輝は将軍職の権威回復に力を尽くしますが、志半ばで暗殺されます（1565年永禄の変）。義輝暗殺の時、義昭の身にも危険が迫りますが、いち早く奈良から脱出すると還俗（僧侶になった者が俗人に戻る）として兄の意思を継いで、将軍職を目指します。当時、幕府のある京都は三好三人衆や松永久秀などの敵対勢力の支配下にありました。自前の軍事力を持たない義昭は、当時、勢力のあった織田信長に助力を求め、敵対勢力を京都から追い払い15代将軍に就任します。しかし、庇護者であった信長は義昭よりも地位が低いことを嫌い、義昭が呈示した副将軍や管領の職に就くことを拒絶して独自に行政区域の支配を強めようとしたため、両者は対立します。信長との決別を決意した義昭は、武田氏、上杉氏、浅井氏、朝倉氏、本願寺などの力のある勢力に働きかけ反信長包囲網を形成しようとしませんが、武田信玄の上洛途上の不慮の死などもあり果たせず、逆に信長より京都から追放されます。その後、中国地方の毛利氏を頼って再起を図りますが果たせぬまま、のちには再び出家して山城国槇島に俗世間を離れて隠れ住みます。義昭の歴史的評価は一般的にはあまり高くはありませんが、政治的にはほとんどなにも持っていない状態から巧みに策略を駆使し将軍職につき、形ばかりのものとなった将軍権力を取り戻すべく最後まで信長に抵抗した人物であったことを考えると、それなりのの能力を持つ人物であったということが言えると思います。

今月のおすすめの本

「がらくた学級の奇跡」

「虫のくる宿」

「科学のお話

「趙」能力をもつ

生き物たち」

パトリシア・ポラッコ

森上 信夫

石田 輝義

あたらしいがっこうでむかえるしんがくき。わくわくするトリシヤを待っていたのは「がらくた学級」とよばれる特別クラス行き。個性豊かな子どもたちが集まるクラスで、本物のがらくたから彼らが作りだしたものは？！

ガラス窓などにとまっている虫をお腹の側からみたことありますか？虫の体のうらがわってとってもおもしろいです。虫たちがガラス窓にとまれる理由もわかります！

生き物の『超』能力から生まれた道具や技術がわかる本です。力がつくっただいたくない注射針、ミミズの動きから内視鏡、カタツムリのからからよごれにくいタイルなど…わかりやすく書かれています。

編集後記

11月21日に、今年で3年目となりますが、鶴見大学より森の台小学校に解体新書などの貴重書がやってきました。6年生が1クラスずつ大学の先生や院生に説明をしていただきながら、実際に貴重書を触ることができました。また、和紙を使って、粘葉装で和本も作りました。終了後のアンケートには、「授業で習った本物の解体新書がとにかくすごかった。」「貴重な昔の本に触れるという本当に貴重な体験ができた」「歴史が好きになった」など、たくさんの感想があがっていました。写真などHPに掲載していますので是非ご覧ください。

11月8日にボランティアさんによる「くじスタ」が始まって以来、連日学校図書館は大賑わいで、中休みだけで400人以上の児童のみなさんが来てくれています。ピブリオバトルで図書委員が紹介した本を借りたいという声もたくさんありました。お友達のお薦めの本が書かれている「読書の木」や「おはなし列車」などをみて、普段手に取らない本にもどんどんチャレンジしてみてください。学校司書 近江